



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

学校だより

令和 6年 4月 8日
東京都立羽村特別支援学校
校長 井上 一仁

新年度の御挨拶

今年度着任しました、校長の井上 いのうえ かずひと 一仁と申します。
よろしくお願いいたします。

小学部169名、中学部121名、高等部216名、全校児童・生徒数506名、教職員193名でスタートしました。本校に異動してきた教職員、新規採用者も数多くいます。4月1日(月)から新年度の準備とともに、服務事故防止研修、生活指導、進路指導研修、保健関係の研修や各学部や学年など様々な会議等を行い、子供たちが安全に安心して学校に通えるよう準備を進めてきました。12日(金)には大学教授を招き、日常の指導に生かせる研修会を実施します。

年度当初は多くの子供たちが、環境の変化に戸惑い、緊張もすることでしょう。今できないことや環境等が変わってできなくなってしまうことがあるかもしれません。そんな時は焦らず、現状を把握して一つ一つ進めていきましょう。学校や家庭での一日一日の生活の積み重ねが、やがて大きな力になります。

今年度51年目のスタートです。子供たちを中心に置き、保護者の皆様、地域関係機関の方々で学校が連携し、一人一人の子供の成長を支えていきたいと思えます。

今後とも何卒御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年度の学校経営について

4月当初の職員連絡会で、本校の教職員に対して、以下のようなお話をしました。

今年度の目指す学校は、

一人一人の可能性を尊重し、生きる力を育てる学校

本校に勤務するすべての人は、子供たちのために働いている。非常にやりがいのある仕事であること。尊重とは大切なものとして敬うという意味があること。児童・生徒はもちろん、教職員、学校関係者同士も互いに尊重(相互尊重)の精神をもって接するよう伝えました。

また、193人の教職員が、このような気持ちで接することで、良好なコミュニケーションができ、良いチームワークが育まれること。

(右上に続く)

このことにより組織がまとまり、子供たちの指導に良い影響があり、さらに子供たちの健やかな成長が期待できる。だからこそ、相互尊重の精神を忘れずに1年間取り組むよう伝えました。

そして改めて、今年度の目指す学校を伝えました。

目指す学校

一人一人の可能性を尊重し、生きる力を育てる学校

- 1 人権を尊重し、児童・生徒が学びたくなる学校
(セーフティ)
- 2 教職員が意欲をもって働ける学校
(スペシャリティ)
- 3 保護者や地域に信頼され、協働する学校
(コラボレーション)

この目指す学校に向かって、保護者、地域関係機関、教職員が同じ方向を向き、共に歩んでまいりたいと思います。

皆さま、ぜひお力添えをお願いいたします。

副校長挨拶

この4月から羽村特別支援学校の副校長に着任しました平野 ひらの しんじ 信治と申します。あきる野学園から来ました。

これから新たに始まる学校生活の中で、教職員が子供たちに敬意をもって指導・支援にあたる、あたたかい学校づくりに尽力していきたいと思えます。

皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本校二年目の高等部副校長の有馬 宏子です。引き続きよろしくお願いいたします。

人は自ら意思決定をしながら自分の人生を自律的に生きる権利をもっています。皆が自己決定し、よりよい生活を送るために、学校は本人に必要な情報を伝える工夫や、粘り強く本人の意思を汲み取り、本人の意思を「尊重」していくことが大切です。そのために学校全体で家庭や本人を支える方々との連携や専門性を磨くことを目指していきます。御協力をお願いいたします。

